

9/28 sat

開会の辞

10:00~13:00

講演



大野 哲生

日本大学歯学部歯科補綴学第II講座  
診療准教授

テーブルクリニック



納村 伸弘

日本大学歯学部付属歯科病院  
歯科技工室

「顎顔面補綴治療の実際」

昭和56年に日本人の死因の第1位が悪性新生物となつて以来、現在までその数は増加の一途をたどっている。私たちの担当分野である口腔領域における患者数は、全ての悪性腫瘍患者数の1~2%であり、2005年の統計では、年間約7000人の罹患者数が報告されている。近年、悪性腫瘍に対する治療法は著しく進歩しており、5年生存率は60~70%との報告もある。すなわち、悪性腫瘍は依然命を脅かす病気ではあるが、現在では、救命のみを目的として治療を行うのではなく、救命はもちろんのこと早期の社会復帰を目指すと共に、患者さんのQOLの確保を求められる時代となってきたと言える。

しかし、未だ救命のみに重きを置いた治療も行われているのが現状である。例を挙げると、上顎悪性腫瘍切除術により、上顎骨を全部または部分的に切除した症例において、鼻腔(副鼻腔)と口腔とが病的に交通する場合が多く、閉塞音と言われる発音障害、口腔内に陰圧にならないために起こる嚥下障害等多数の問題が生じる。したがって、術後出来るだけ早期に向部位の閉鎖に対する処置を行わないと、前述した発音・嚥下障害による、患者さんの社会復帰が著しく遅れる原因となる。しかし、数ヶ月以上ガーゼ等にて簡易的に封鎖を行った状態で創面の経過観察を行った後に、紹介来院される場合もある。また、下顎悪性腫瘍切除術により、下顎骨を部分的に切除および切断後、チタンプレートや骨移植により再建する症例においては、再建時に上下顎の三次元的な位置関係を再現することが重要である。しかし、筋肉が弛緩している全身麻酔下では、位置関係を再現すること容易ではなく、適切な再建が施行されない、術後、咬合関係に狂いが生じ、咀嚼機能に大きな障害が残る可能性がある。すなわち、顎顔面補綴治療の目的は、顎顔面欠損に対する補綴治療のみならず、外科等の治療に対する補助装置の設計製作もその守備範囲となる。

本講演では、現代の顎顔面補綴治療の実際として、患者さんのQOLの確保を目指して我々が何を行っているのかを、種々の症例をもって概説する。また、テーブルクリニックとの連動企画にて、上記障害を事前に回避するために行われている方法のひとつである、外科的即時栓塞子(ISO)や、下顎離断症例に対する下顎位保持用外科的シーネの製作法等についても紹介する予定である。

14:00~17:00

講演



伊和 均

日本大学歯学部歯科補綴学第II講座  
診療教授

テーブルクリニック



小笠原 明

日本大学歯学部付属歯科技工専門学校  
専任教員

「審美性の要求に応えるパーシャルデンチャー」

一特にアセタールレジンクラスプ®の製作法と臨床応用について一

近年、審美性に対する患者の要求度が高まる中、部分床義歯においても審美性と機能性の両方が要求されてきています。そこで、本講座ではメタルクラスプの審美不良の対応策として、熱可塑性樹脂(レジン)の一種であるアセタールレジン(acetal resin, Polyoxymethylene: POM)を用いたアセタールクラスプ(acetal clasp®; Myerson /USA)に着目し、その有用性について基礎的、臨床的検討を約7年間行い、患者満足度の高い良好な結果(破損無しなど)が得られたことを報告してきました。

本クラスプは、カンタイプ専用射出成型器(HotshotElite®; Myerson /USA, ウェイブレンクス: 日本床売元)により誰でも簡単に製作ができるだけでなく、いわゆるノンクラスプデンチャーとは異なり、支台歯の歯肉縁を覆うことなくクラスプ形態が付与とできることから、自浄性が良く、従来からの設計原則を変えずに支持と把持部(レスト、舌側腕、隣接面板、脚)はメタルで強固に、外観にふれる唇・頬側の維持部をアセタールレジンとするコンビネーションクラスプ(Akers type, RPA type)が可能であり、レジン床および金属床義歯に応用できます。また、適法のクラスプの修理・交換のみならず、既存義歯を損なうことなく、支台歯隙間人工歯の唇側近心から舌側遠心に角度付けたトンネルを形成し、射出成型による短時間で確実なクラスプの交換も容易であり、さらにVITA Shade 16色、透明白色、歯肉色が付属している点においても優れています。今回の講習会では本クラスプの材料特性、研究に基づいた設計の要点、臨床応用例、および射出成型によるクラスプ交換法の講義と実際に射出成型器を用いた製作法のテーブルクリニックを行います。また、演者が約30年応用している審美と機能を兼ね備え、修理が容易なピーチ・アタッチメントについてもお話したいと思えます。

【内容】

1. 長期の維持・安定を目指した部分床義歯の設計: 長期経過症例(10~35年)からの評価
2. これからのパーシャルデンチャー  
審美性義歯(審美と機能)、インプラントを補助支台とした可撤性義歯
3. アセタールレジンクラスプの材料特性と研究に基づいた設計、製作法の要点
4. 電気加熱射出成型器(HotshotElite®)による射出成型法
5. 臨床応用例
  - ①金属とのNewコンビネーションクラスプ、レジン床義歯、金属床義歯への応用例
  - ②ピーチ・アタッチメント、磁石など他の支台装置との併用例
  - ③既存義歯を損なわず簡単に確実にできる射出成型によるクラスプ交換法
6. テーブルクリニック  
模型を使用して専用射出成型器(HotshotElite®)による射出成型のデモを行う。